

平成23年度
実施事業

事務事業名 救急情報支援システム導入事業

区分	No	名称
章	2	自然とともに暮らすまち
節	3	安全に安心して暮らせるまちづくり
施策	2	消防・救急救助体制の充実
小分類	2	消防力の強化・高度化
主要な施策	1	消防施設、機器整備の高度化と効率化
事務事業番号	023	事業開始年度 平成 23 年度 事業終了年度 平成 - 年度 会計種別 一般会計

部 名	消防本部	グループ名	警備 G
-----	------	-------	------

事務事業の概要

《Plan・Do》

目的	(事務事業の実施目的を具体的に記入してください)
	救急業務活動記録に現在整備されているインターネット環境を利用し、レンタルサーバーへアクセスするシステムを導入することにより、日々煩雑化する調査依頼、活動報告業務を簡素化し、事務の効率化と省力化を図り少数従事職員で最大限の効果を挙げることを目的とする。
事業内容及び実績	(事業内容及び平成23年度の実績を具体的に記入してください)
	事案毎の情報をデータベース化することにより、署所間における迅速な情報交換を可能にし、集計された救急処置録情報等の迅速な情報共有は、救急隊の活動のより一層の進歩・向上をさせた。また、救急活動報告書とリンクし、総務省消防庁への統計・調査報告書や救急処置録・地域MC検証票等が自動的に入力されることにより、業務の簡素化、統計の正確さが図られ、あらゆる多様な統計調査依頼等に迅速な対応が可能となり事務の効率化と省力化を図り少数従事職員で最大限の効果を挙げている。
今後の方向性	(次年度以降の事業展開における改善など今後の方向性を具体的に記入してください)
	煩雑化する統計業務、調査報告依頼などは本システムを導入したことにより事務の効率化、省力化が図られ、このシステムを継続する必要がある。
根拠法令等	(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称を全て記入してください)

事業費（財源内訳）の推移

《Plan・Do》

区分		単位	H22年度 決算	H23年度 決算	H24年度 当初予算	H25年度 見込	H26年度 見込
国庫支出金	名称	千円					
道支出金	名称	千円					
地方債	名称	千円					
その他	名称	千円					
一般財源	名称	千円		630	630	630	630
事業費 合計			0	630	630	630	630

指標の推移

《Check》

区分		単位	区分	22年度 実績	23年度 実績	24年度 目標	25年度 目標	26年度 目標
成果 指標	救急情報支援システム	式	目標値		1	1	1	1
			実績値		1			
			目標値					
			実績値					

現況		《Check》
現状の状態、問題点、課題等《事業前》	具体的な対策、解決の方向性《事業後》	
<p>救急統計は無料のシステムを各署所一台のPCにインストールし活用していたが、国の救急事故等報告要領の変更に対応できず、また国や道、医師会等からの突発的な調査報告は、すべてをカバーできず、最終的には手作業となっていた。さらにハードも老朽化が進み保存データの破綻が危惧された。</p>	<p>インターネット環境下のすべてのPCより入力が可能となり一括入力された救急業務情報を一元管理し各報告書に反映される。またデータベース化されたことにより煩雑、突発的な統計調査依頼にも対応することができる。</p>	

担当グループによる事務事業評価の内容（複数回答可） 《Check》

1. 事務事業の妥当性について		
<p>市が事業主体として実施していくべき妥当性の高い事業ですか？</p>	市が主体に行うべき事業である	<p>判断理由及びその他所見</p> <p>救急統計等業務が目的であり、市が実施することが妥当である。</p>
	民間(事業者、市民団体等)でも実施可能である	
	国、道、他団体等との連携や広域化が可能である	
	国、道、民間等の事業と重複・類似している	
2. 事務事業の必要性について		
<p>市民ニーズの状況等から勘案して、必要性の高い事業ですか？</p>	市民、団体等から具体的な要望がある	<p>判断理由及びその他所見</p> <p>国の救急事故等報告要領の変更に対応し、国、道あるいは医師会等からの突発的な調査報告依頼にも即座に対応している。</p>
	市民アンケートの結果から必要性が高い	
	社会情勢、地域事情等から必要性が高い	
	市民の大部分が関連することから必要性が高い	
3. 事務事業の効率性について		
<p>事業内容とコスト(事業費)のバランスがよい効率性の高い事業ですか？</p>	低予算、少労力で高い効果をあげている	<p>判断理由及びその他所見</p> <p>サーバーなどの初期投資がなく、現在配置のインターネット環境下にあるPCで入力する。また救急情報はデータベース化されたことにより煩雑、突発的な統計調査依頼に対応することができる。</p>
	市で実施するほうが民間委託より効率性が高い	
	多額の経費や労力を要するがやむを得ない	
	将来的に効率性を向上できる	
4. 事務事業の成果について		
<p>目的を達成するための成果はあがっていますか？</p>	成果指標の向上が見られる	<p>判断理由及びその他所見</p> <p>業務の簡素化、統計の正確さが図られ、あらゆる多様な統計調査依頼等に迅速な対応が可能となり事務の効率化と省力化を図り少数従事職員で最大限の効果を挙げている。</p>
	市民、団体等の声から成果を感じられる	
	目に見える形で成果があがっている	
	成果の把握は困難である	

担当グループによる評価 《Check》

維持	<p>左記の評価を選択した具体的な理由(根拠)</p>	<p>本事業は救急統計等業務の簡素化が目的であり、継続して導入することにより統計調査などの事務の効率化と省力化を図り少数従事職員で最大限の効果を挙げることができる。</p>
----	-----------------------------	--

行政評価会議による評価 《Check》

維持	備考
----	----